

生存圏研究所

I	研究の水準	研究 23-2
II	質の向上度	研究 23-4

I 研究の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 研究活動の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点1-1「研究活動の状況」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 学際的新領域「生存圏科学」の創成を担う若手人材育成のために、平成26年度に生存圏科学に関する解説書『生存圏科学への招待』を出版するとともに、生存圏科学をわかりやすく解説するマンガ『生存圏って何??』を平成21年度から合計15号作成し、合本として英語版とともに出版している。
- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）の科学研究費助成事業の間接経費を含む採択金額は平均約1億5,200万円であり、本務教員年度一人当たり平均約390万円となっている。また、第2期中期目標期間の科学研究費助成事業以外の外部資金は平均約4億円であり、教員年度一人当たり平均約1,020万円となっている。
- インドネシアに3か所の共同研究拠点を有しており、海外の21大学・研究機関と国際学術協定を交わしているほか、年間約3回の国際会議と国際学校を開催している。また、学際研究の推進と若手研究者育成のため、第2期中期目標期間に学際的研究を自ら提案・実施する研究員であるミッション専攻研究員を延べ34名任用している。
- 第2期中期目標期間の国際会議で発表された論文数は合計1,017件、国際学術誌に掲載された論文数は合計857件となっており、国際学会での学会発表数は合計947件、国内学会での学会発表数は合計1,657件となっている。

観点1-2「共同利用・共同研究の実施状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 共同利用・共同研究課題の採択件数は、平成22年度の263件から平成27年度の338件となっており、共同利用の総参加者は平均約1,200名となっている。また、採択課題のうち14%は国際課題となっている。
- 第2期中期目標期間に生存圏シンポジウムを165回開催し、平均2,138名が参加している。

以上の状況等及び生存圏研究所の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「研究成果の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学術面では、特に超高層物理学の細目において卓越した研究成果がある。また、日本農学賞及び読売農学賞や文部科学大臣感謝状及び宇宙開発担当大臣感謝状等 17 件の受賞があり、若手研究者への奨励賞、論文賞、研究発表賞を含めると受賞総数は 79 件となっている。
- 卓越した研究業績として、超高層物理学の「地球放射線帯基礎物理過程に関する理論・シミュレーション研究」があり、国際会議の招待講演数は 25 件以上となっている。
- 社会、経済、文化面では、特に木質科学の細目において卓越した研究成果がある。また、持続発展可能な循環型社会の構築のための研究を実施しており、木質科学、気象・海洋物理・陸水学、通信・ネットワーク工学の研究成果がある。
- 卓越した研究業績として、木質科学の「セルロースナノファイバー材料の開発」があり、内閣府より公表された「日本再興戦略」にセルロースナノファイバーの研究開発等によるマテリアル利用の促進に向けた取組を推進することが明記されている。

以上の状況等及び生存圏研究所の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

なお、生存圏研究所の専任教員数は 39 名、提出された研究業績数は 8 件となっている。

学術面では、提出された研究業績 8 件（延べ 16 件）について判定した結果、「SS」は 3 割、「S」は 4 割となっている。

社会、経済、文化面では、提出された研究業績 5 件（延べ 10 件）について判定した結果、「SS」は 4 割、「S」は 4 割となっている。

（※判定の延べ件数とは、1 件の研究業績に対して 2 名の評価者が判定した結果の件数の総和）

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「研究活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 大型装置・設備の提供等により、共同利用・共同研究の採択件数は第1期中期目標期間（平成16年度から平成21年度）の合計1,271件から第2期中期目標期間の合計1,968件となっている。
- 第2期中期目標期間の科学研究費助成事業以外の外部資金の受入金額は平均約4億円であり、教員一人当たり年度平均約1,020万円となっている。

分析項目Ⅱ「研究成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 日本農学賞及び読売農学賞や文部科学大臣感謝状及び宇宙開発担当大臣感謝状等17件の受賞があり、若手研究者への奨励賞、論文賞、研究発表賞を含めた受賞総数は79件となっている。
- 「セルロースナノファイバー材料の開発」では、セルロースナノファイバー研究の重要性が認められ、内閣府より公表された「日本再興戦略」にセルロースナノファイバーの研究開発等によるマテリアル利用の促進に向けた取組を推進することが明記されている。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における研究水準の結果も勘案し、総合的に判定した。